

2019年度 総合薬学研究・総合薬学演習卒業論文発表会開催

教務課



発表会場の様子



質疑応答の様子



“Get-Together Party”の様子

2019年6月25日(火)・26日(水)の2日間にわたり、創立130周年記念館にて6年次生の卒業論文発表会を開催しました。グローバル人材育成の一環として、全員が英語でのポスター作成・発表・質疑応答を行いました。6年次生は、海外学術交流協定校の教員や学生(8校23名)、外国人留学生、大学院生等と活発な意見交換を行い、活気あふれる発表会となりました。

CONTENTS

■ 特集

京都薬科大学給付型奨学金「研究・課外活動優秀者」について・・・ 4

■ コラム

水中でぶつぶつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

卒業生からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

京薬コレクション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

私の薦める、私の一冊・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

学生相談室だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

■ 報告

2020年度大学院の入学選考結果・・・・・・・・・・ 2

2019年度 京都薬科大学給付型奨学生が決定・表彰されました・・・ 7

MCPHS大学サマープログラムに参加して・・・・・・・・ 8

名誉教授授与にあたって・・・・・・・・・・・・・・ 10

北欧スウェーデンの薬局と医療制度についてのご紹介・・・・ 12

第104回薬剤師国家試験の結果について・・・・・・ 14

日本薬学会 第9回全国学生ワークショップに参加して・・・・ 24

受賞・掲載・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

京都薬科大学奨学寄附金芳名録・・・・・・・・・・・・ 28

■ ご挨拶

ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

■ イベント

2019年度総合薬学研究・総合薬学演習卒業論文発表会開催・・・・ 1

海外協定校との交流会・リサーチシンポジウムを開催しました・・・ 9

第13回 自治会執行部主催 セタ企画・・・・・・・・・・・・ 11

理科実験講座「身近な夏の不思議体験2019イン山科」・・・・・・ 13

2019年8月にオープンキャンパスを開催しました・・・・・・ 16

各種セミナーの報告書・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

運動系クラブ AED講習会参加・・・・・・・・・・・・ 21

第5回 卒業生・在学生交流会を開催しました・・・・・・ 22

■ お知らせ

京薬会だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

人事異動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

2019年度生涯研修プログラムのお知らせ・・・・・・ 20

第17回「文化講演会」のお知らせ・・・・・・・・・・・・ 22

クラブだより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

Library News・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

2019年度学位記授与式(前期)・・・・・・・・・・・・ 24

発表会では、研究に関するコミュニケーションが評価された学生約90名に、海外学術交流協定校の教員や学生から発表会終了後に開催する“Get-Together Party”への招待状が授与され、パーティーで親交を深めることとなりました。



Welcome Meetingの参加者（招待者と本学教員）

＜スケジュール＞

日時		系	分野
6月25日	第1部 13：30～14：50	病態薬科学	病態生化学、薬物治療学、臨床薬理学、薬理学、臨床腫瘍学
	第2部 15：10～16：30	医療薬科学	薬剤学、薬物動態学、臨床薬学、臨床薬剤疫学
		統合薬科学系	
		基礎科学	健康科学
		薬学教育	臨床薬学教育研究センター
		附属施設	薬用植物園、放射性同位元素研究センター、共同利用機器センター
	第3部 16：50～18：10	創薬科学	薬化学、薬品製造学、薬品化学、生薬学
6月26日	第1部 13：30～14：50	分析薬科学	薬品分析学、代謝分析学、薬品物理化学
	第2部 15：20～16：40	生命薬科学	衛生化学、公衆衛生学、微生物・感染制御学、細胞生物学、生化学、病態生理学

2020年度大学院薬学専攻博士課程（夏季募集）、
2020年度大学院薬科学専攻博士前期課程（夏季募集）の入学選考結果 *Report*

入試課

2020年度大学院薬学専攻博士課程（夏季募集）、2020年度大学院薬科学専攻博士前期課程の入学選考を8月20日(火)に実施し、8月26日(月)に合格発表を行いました。入学選考の結果は表の通りです。

○2020年度薬学専攻博士課程（夏季募集）

志願者数	10名
受験者数	10名
合格者数	10名

○2020年度薬科学専攻博士前期課程（夏季募集）

志願者数	1名
受験者数	1名
合格者数	1名

新任のご挨拶



基礎科学系
健康科学分野

こういちろう
助教 棚橋 高一郎

この度2019年7月1日付で健康科学分野の助教に着任いたしました棚橋高一郎と申します。本誌面をお借りしてご挨拶申し上げます。私は2012年に埼玉県立大学を卒業後、筑波大学大学院に進学し、前田清司教授のご指導の下、習慣的な運動が動脈硬化を抑制するメカニズムについて研究をおこない、修士および博士号を取得いたしました。その後、同大学に

て研究員として活動し、現在は運動が持つ健康効果について幅広く研究をしています。また近年では、母校の埼玉県立大学の非常勤講師として教育にも携わらせていただきました。

本学では、微力ではございますがこれまでの経験を活かし、熱意と責任感をもって教育・研究において、大学が目指すScience（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた人材育成および学術研究の推進とともに、幅広い分野で活躍できるファーマシスト・サイエンティストの育成に尽力する所存でございます。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



事務局
会計課

事務員 中西 弘樹

2019年7月1日付で入職し、事務局会計課に配属されました中西と申します。この度、事務職員として採用していただき、本学の大学運営に携わることができて、とても光栄に存じます。私は大学を卒業後、市役所にて行政職として勤務し、福祉と防災に関する業務に従事しておりました。市の業務は、都

道府県から市町村へと事務権限が移譲される中、限られた予算(=税金)で、それらの業務を行わなければならない厳しい状況でした。また市民との距離が近い故に、施策に対して、厳しい意見を言われることも多くありました。しかし、そのような意見もしっかりと受け止め、コスト意識を持って、公正・公平に職務にあたるように心がけてきました。

視点は異なりますが、本学においても共通する部分があると考えておりますので、それを忘れることなく、精進する所存です。至らない点もあるかと思いますが、皆様のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

昇任のご挨拶



事務局

事務局次長(学生サービス担当)
教務課長 森 洋介

2019年7月1日付で事務局次長に昇任させていただき、引き続き教務課長も兼務することとなりました。事務局次長として学生サービス部門（教務課、学生課、進路支援課、国際交流推進室）の4部門を担当させていただきます。

大学を取り巻く環境、とりわけ薬学部を取り巻く環境は今後一層厳しくなることが予想されます。こ

のような環境においても社会から支持される大学であり続けるためには、更に高いレベルでの薬学教育・研究を推進するとともに、本学の優秀な学生を幅広い領域に輩出し続けることが必要です。このことを実現するために学生サービス部門の連携を強化し、その連携効果により本学の薬学教育・研究の推進を更に強力にバックアップするとともに、学生の皆さんがよりアクティブに活動できる環境を構築していきたいと考えています。

本学が掲げる「社会を動かす薬学へ。」実現のため尽力する所存でございますので、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

京都薬科大学給付型奨学金 「研究・課外活動優秀者」について



京都薬科大学では、従来給付型奨学金は主として成績優秀者への給付としておりましたが、2017年度に奨学金制度を改変し、新たな奨学金制度として「研究・課外活動優秀者」への給付型奨学金を設立しました。この制度では、他の学生の模範となり得る活動をしている学生に対して表彰及び奨学金の給付を行います。

今年度で運用から3年が経過いたしますが、多忙な薬学のカリキュラムをこなし、その上で正課外においてチャレンジをしている学生の多さに驚いているとともに、こんなにも素晴らしい学生の皆さまが本学に在学していることを誇りに思います。

本稿では、2017年度から2019年度までの受賞者の活動概要及び2019年度受賞者からの寄稿をご紹介します。

学生部長 上野 嘉夫

Feature article.

学生課

研究・課外活動優秀者奨学金制度概要

- ①奨学生資格：研究活動、課外活動、ボランティア活動などにおいて他の学生の模範となり得る活動を行い、顕著な実績又は成果を挙げた者（休学中の者は除く）
- ②奨学金額：一人年額 50,000～200,000円
- ③採用人数：十数名程度
- ④募集時期：毎年2～3月頃
- ⑤その他：給付型奨学金のため返還不要
他の学内外奨学金との併給可

採用実績

2017年度	15名
2018年度	8名
2019年度	7名
3年間計30名	

給付額実績（累計）

3,300,000円

活動実績

2017年度

G.U.Choirでの合唱活動を通じて得た、運営ノウハウとコミュニケーション能力
京薬ソフトテニス部初の関西医歯薬ソフトテニス大会団体ベスト8
本学代表として医療チーム学生フォーラムに参加し、医療系学生イベントを企画運営
「ディスクゴルフ」2016年度日本ランキング6位。2017年度世界選手権出場権獲得。
市や京薬会、図書館などマンドリン演奏ボランティアを継続して地域交流に貢献
研究テーマについて日本薬学会や日本薬理学会年会での発表及びBBRC誌への掲載
スポーツ分野の競技エアロビックにおいて個人競技で全国大会に出場
本学の剣道部に所属しており京滋学生剣道大会個人戦二段以下の部において準優勝
こどもホスピスにて、絵本の読み聞かせ等のボランティア活動に取り組む
管弦楽部のコンサートマスターとして楽団を主導し、その発展に貢献
関西薬学生連盟硬式庭球大会で、女子団体にシングルスとダブルスで出場し優勝
後輩へ大学生活を伝える母校訪問を毎年行い、高校と大学を繋ぐ架け橋となる活動を担う
関西薬学生硬式庭球大会での活動～優勝への3年間の軌跡～
部活動において、全日本薬学生ソフトテニス大会で3位に入賞
薬物乱用防止シンポジウムでのパネリストで薬学生の立場で自分の考えや意見を述べた

2018年度

学生チャレンジ事業によるディスクゴルフの活動記録
薬物乱用防止啓発運動に参加することで見えた薬剤師の社会的役割に対する展望
随心院ミス小野小町の活動を通して山科の地域活性化に貢献
男子バレーボール部での部活動改革（技術・栄養指導など）
子どもと医療に関するボランティア活動に積極的に参加
京都薬科大学の学内ジョブに積極的に参加し、大学貢献を果たした
オープンキャンパス・母校訪問を通じて京都薬科大学及び薬学部への広報に貢献
第71回関西薬学生連名剣道大会 男子団体優勝

2019年度

競技エアロビックを通して築きあげた私
ベトナムの孤児院での、国際ボランティア活動
大学コンソーシアム京都での積極的な留学生支援
国際的活躍に向けて（京都学生PR大使、OIST2019での英語プレゼンテーション）
2018関西学生アメリカンフットボールリーグDivision3Eブロック全勝優勝
発展途上国（ミャンマー）における医療ボランティアへの参加
独自での母校訪問による薬学部の紹介及びフィギュアスケートサークルの創設

■研究・課外活動優秀者奨学生による寄稿

今年度研究・課外活動優秀者奨学生となりました下記学生に活動内容について寄稿いただきましたのでご紹介させていただきます。

◇薬剤学分野 6年次生 網 梨緒奈

競技エアロビックと共に

私は5歳の頃に競技エアロビックに出会い、それから20年間競技エアロビックと共に歩んできました。競技エアロビックってなんだろう？そう思う人がほとんどだと思います。「エアロビクス」がスポーツに発展したもので、近年では体操競技と同様に表現スポーツや採点スポーツに位置づけられており、オリンピック種目を目指すまでになっています。公式競技は、部門や年齢別に競技エリアを使用し、定められた競技時間の中でエアロビック動作や難度別の技を組み合わせた演技を行います。これを「難度」「実施」「芸術」の観点から採点します。

京都へ大学進学してからは、新しいチームに所属し新たな場所で新たな挑戦をしてきました。これまで私は、国際大会に繋がる部門に出場しており、なかなか全国大会出場という夢を果たせずにいました。しかし、全国で自分の実力がどこまで通用するのか限界に挑みたく、大学4年生の時に新しくできた部門に思い切って転向し、「全国大会で初代チャンピオンになる」という大きな目標をたてました。学校との両立もある中で、現状に満足せず自分自身にとって高い目標を設定することは、モチベーション維持や選手としての成長にも繋がると考えたからです。全国大会には全国各地で予選を勝ち抜いた上位3名が集まります。私の出場した部門は個人競技で、17歳から45歳までの人が出場しているので年齢層も広く、若い選手からベテラン選手まで様々な選手の方と競い合います。結果は見事全国大会出場を果たし、中でも、転向後初の全国大会が最も記憶に

残るものとなりました。試合2ヶ月前に膝の靱帯を断裂してしまうという、絶望的な状況に陥りましたが、私は逆にピンチなはずの怪我をチャンスととらえ、普段は目を背けてきた自分の弱い部分にひたすら向き合い続けました。怪我を前向きに捉えることによって、怪我をする前よりも更にレベルアップした強い自分に生まれ変わることができ、準優勝というこれまでの人生の中で最高の賞を頂くことができました。この怪我なしでは準優勝はとれなかったと今でも思っています。そして、怪我を経験したからこそ再確認できた選手でいられることの有難さ、これを噛みしめて臨んだ去年の全国大会では惜しくもチャンピオンにはなれませんでした。2年連続全国大会で準優勝を獲得することができました。この年の全国大会では、個人の部門だけではなく同じチームメイトとグループを組んで、新しくできた「エアロビック・ダンス部門」にも予選を勝ち上がり出場し、4位に入賞しました。やりたいことばかりではない練習も目指したい目標をクリアするためであり、仲間がいるからこそ努力し続けられることを改めて感じるすることができました。

これまで競技エアロビックに打ち込んできて得たものや人との繋がり、私の人生においてかけがえのない財産と誇りになりました。これは、就職活動での自分の最大の強みにもなりましたし、どんな困難なことにもポジティブに対応することができるようになりました。誰しも一人ひとり、必ず他の誰にも負けない何かがあると思いますし創り出すこともできます。みなさんにも、どんな環境であっても自分らしさを発揮することで、どんどんチャンスやきっかけを生み出し続けていってほしいと思います。



最初の全国大会での表彰式(筆者：前列右から5番目)



エアロビックダンス部門に出場したチームメイトと(筆者：右から2番目)

◇臨床薬学分野 6年次生 折方 琴音

ベトナムでの国際ボランティアに参加して感じたこと
初めに、今回、このような寄稿をさせて頂く機会が与えられましたことに感謝致します。

私は、2018年3月末の2週間、ベトナム ホーチミンでの児童福祉に関する国際ボランティアに参加しました。活動内容は、ベトナム戦争での枯れ葉剤の影響により身体・知的障害を持った、孤児院で暮らす子ども達のお世話です。日本人、アメリカ人、韓国人など8

名程のボランティアで、子ども達と一緒に遊んだり、食事介助や歩行訓練の手伝いなどを行いました。

この活動に参加した理由は、1年次生から続けてきたこどもホスピスでのボランティア経験を別の活動にも活かしてみたい、また日本と海外の医療・福祉の違いを自分の目で見てみたいと思ったからです。そして、日本での長年のボランティア経験から、現地に行ったら積極的に何でも行動できるという自負を恥ずかしながら持っていました。しかし、現地の衛

生環境や子ども達への接し方は、日本とは全く異なり、カルチャーショックを受けてしまいました。それでも、この現状を何とか変えたい、日本のような環境にしてあげたいと思いましたが、活動を始めて2〜3日経って、ようやく自分の考えは浅はかだったことに気づきました。ここはベトナムで、日本とは文化・慣習、考え方、価値観が違うため、日本の水準を押しつけ、日本の様な環境に変えようとするのは間違いだったのです。また、2週間という短期間で、現状を大きく好転させることはできないことにも改めて気づかされました。そこから私は、活動に対する考え方を改め、スタッフの手伝いに徹するようになりました。それも、ただ指示待ちになるのではなく、スタッフの行動を観察し、先回りして手伝いをするようになりました。このように活動をしていると、初めは全く意思疎通ができなかったスタッフの人達とも距離が近くなり、お菓子を頂けるような仲にまでなりました。私たちの行いを認めてもらえたと、大変嬉しく思いました。

今回の活動を振り返ってみて、環境を改善することはできず後悔が残る一方で、少しでも愛に飢えている子ども達に思う存分甘えさせてあげたり、スタッフの負担を減らすことができた点は満足できました。また、自分とは異なる考え方や価値観を理解し受け入れることの難しさと大切さを学べました。そして、ネット上などの情報を読むだけではなく、実際に国を訪れ

ることで、色濃く残る戦争の影響や貧困問題などを体感することができ、大変勉強になりました。

ここまでお読み下さった方の

中には、所詮ボランティアなんて偽善だ、勉強になるなんてきれい事だ、と思われた方もいらっしゃるでしょう。私自身もそのような考えがよぎったこともあります。偽善でもやるのとやらないのでは、大きく違います。また、きれい事だと言われても、自分の目で見て、日本の状況が全てではないことを知るのと知らないのでは天と地の差だと感じました。だから、少しでも世界に興味があるという方は、現地に足を運び、自分の目で見て、肌で感じて欲しいと思います。

最後になりますが、今回の国際ボランティアに参加するにあたり、何度も相談に乗っていただいた国際交流推進室の佐々木さんに感謝致します。また、日本、ベトナムのボランティア団体であるCIEE、VPVの皆様をはじめ、本活動に関わってくださった全ての方々に感謝致します。拙い文章ですが、最後までお読みいただきありがとうございました。



食事を待つ子ども達



ベトナムのKy Quang寺院における活動の様子



日本人ボランティアと子ども達(▼:筆者)

■ おわりに

本奨学金の担当者として、過去3年間に申請をされた学生を見てきましたが、いずれの学生においても「自分自身がどういう人間であるかを語れる」ということが共通していました。「自分自身を語る」ということは、「自らが実践してきた歴史を語り、その歴史に裏付けされた自分の能力を語る」ことです。もちろん、それは長所だけでなく、短所も含めて、です。

重い最初の一步を、勇気をもって踏み出し、多くの失敗を乗り越え悩みながらも前進し、諦めずにチャレンジしてきたことが、それぞれの奨学生の歴史を形成してきたのでしょう。そして、その積み上げてきた歴史が奨学生の長所や短所を浮き彫りにし、魅力的な人間を創りあげているのだと思います。

本稿をお読みいただいた学生の皆さん、「私には関係ない奨学金」と思っている方もいらっしゃるかと思います。また、「こんな立派なこととはできない」と考える方もいるかも知れません。しかしながら、遅かれ早かれ、皆さんの就職活動の際は、面接で「自分自身を売り込む」＝「自分自身を語る(自己PR)」という機会がやってきます。その時、自信を持って自分のことを語れるよう、今からこの制度を活用して「チャレンジ」してみませんか。もちろん、就職活動にこだわらず、自分自身の視野を広げたり、可能性を確かめる場としてもらえれば幸いです。「何をしたら良いかわからない」「失敗が怖くてチャレンジできない」という方も、まず「自分何ができるか悩むこと」が最初の一步です。

何かをやり遂げたあかつきには、ぜひ本奨学金へ応募してみてください。皆さんの活躍を楽しみにしております。

(学生課 外村 友彦)

学生課

本学では、優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図ることを目的に、給付型奨学金制度を設けております。今年度は、合計114名（新入生特待生1名、大学院入試成績優秀者3名、学部成績優秀者73名、遠隔地出身者30名、研究・課外活動優秀者7名）の奨学生が選出され、奨学金が給付されました。表彰式は、7月8日（月）に執り行われ、土屋理事長から奨学生の心構えについての訓示と、表彰状が授与されました。

学生の修学支援のためのこれらの奨学金は、卒業生（京薬会会員）、法人役員、職員、ご父母（教育後援会会員）の皆様からのご寄付により成り立っております。

皆様からの多大なるご協力に本誌面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

入試成績・成績優秀者					
学部特待生	学部在学学生				
今西 美稀	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	池田 匠吾	國分 麻衣	赤井 里冴	石井 沙季	池田 沙織
	大見 里奈	坂井 京子	大嶋 智子	石本 りさ	岩崎 年示
	川上 夏輝	澤田 哲平	加屋 優希	内海 慈乃	岡田麻里奈
	川本真由香	竹田 侑生	川中 彩永	太田千佳子	奥 大輝
大学院新入生	桑島 優	西田 圭佑	高畑 洋平	岸本 滝世	川崎 那奈
	澤田 果奈	野田 悦子	七里 瑠奈	小林 明梨	北野 美鈴
	塩飽 海士	藤田 沙弥	高田真優子	菅原櫻希子	木村 明穂
	高橋 裕貴	藤本 和也	出口 和貴	関 美晴	久保田知沙
今吉 菜月	辻岡 里菜	松山 千夏	富田 萌映	高橋みのり	佐藤 未来
杉山 雄輝	戸井 真也	安川 美優	中井 亮太	武貞 有芳	瀬良 郁実
福田 愛菜	藤井 菜緒	山崎菜々子	藤井日加里	辻谷 優菜	萩野 真理
	圓井亜由美	山下実香子	本間友梨子	中澤 孝佑	姫野恵利那
	安富彰一龍	山本実伶奈	松浦さくら	中野 友絵	森田 萌子
	山内 玲佳		山下 遥加	中村 元	柳本 嘉希
	山下 智仁		山本 美優	山田 倫暉	吉澤 正人
研究・課外活動優秀者			遠隔地出身成績優秀者		
網 梨緒奈	佐藤裕次郎		2年次	3年次	4年次
折方 琴音	東 咲希		上原信之輔	青島 穂波	岡崎 彩香
太田千佳子	武田里佳子		木村 仁美	植松 美帆	小山 未来
吉岡 希恵			近藤 彩音	岡本 仁志	酒井 智帆
			佐々木美音	葛原 寛子	島 千晶
			下木 美里	黒川 真由	嶋田 佳子
			田所 史帆	重岡 美玖	野田 早紀
			野村 凜	鈴木 雅之	伴 美咲
			宮本早也佳	田中 里奈	山下 真歩
			山本 夏菜	深町 駿太	横川 碧
			若林 実来	山本 祐奈	吉岡 綾音



2019年度給付型奨学生
表彰者

8月初旬の2週間、協定校である米国ボストンのMCPHS大学に、勝見准教授、内藤助教、太田事務職員の引率のもと、2年次生、3年次生の10名が留学しましたので、その様子を報告いたします。

■3年次生 板垣 里奈

MCPHS大学への留学は私にとって感動と驚きの連続だった。たくさんの素敵な人々、異文化との出会いを通して多くのことを学び、留学に行く前と比べて自分の価値観や考え方が大きく変化し、新たな目標もできた。MCPHS大学での英語の授業では発音練習やリスニングだけではなく、薬剤師と患者の電話対応や服薬指導のロールプレイングを行い、アメリカの薬剤師の仕事を体験することができ、とても興味深かった。アメリカの大学の授業では自分の意見を持ち、それを伝えることが求められた。初めは緊張と自信のなさから発言するのをためらっていたが、現地の先生のアドバイスにより文法の正確さよりも自分が伝えたいことを最後まで相手に伝えることを実践できた。薬学の授業では日本で以前に習った内容を英語で学び、少し違った視点で考え理解を深めることができたように感じる。

また、科学の世界では学ぶ際の言語は違うものの学んでいる内容は同じであり、科学は世界共通であるということを再認識することができた。病院・薬局見学では日本とアメリカで様々な違いがあり、アメリカの病院には薬剤師の他にテクニシャンがいて調剤の業務をしており、薬剤師は彼らを監督する責任があるということ、アメリカの薬剤師はワクチン接種をすることができ薬局の一角にワクチン接種の

ブースが設置されていることに驚いた。自由時間には自分たちで計画してボストンの様々な観光地に出かけた。特にレッドソックスの野球観戦やブリマスの観光、現地の学生とのボストン散策、ダックツアーはとても楽しく一生忘れないであろう大切な思い出となった。

今回の留学はただ楽しいだけのプライベートの旅とは異なり、安心した環境の中で多くの刺激を受け、私の今後の人生に大きな影響を与える充実した2週間であった。サポートして頂いた先生方、家族に感謝するとともに、この経験を糧に広い視野を持ちグローバルに活躍する人材になりたいと強く思う。



サマープログラム修了認定を受けて
(筆者：前列左から2番目)

■2年次生 木村 葉^{よう}

アメリカの医療制度は日本と異なる点が大きく、それによって薬剤師の役割も日本と異なっていた。MCPHS大学サマープログラムで、日本の医療制度に活かせる点、日本の医療制度の方が良い点、両方を感じることができた。以下に、アメリカの調剤薬局と病院の特徴について述べる。

Community Pharmacy (調剤薬局)

アメリカの調剤薬局には、薬剤師の他に、Pharmacy Technician (薬剤師アシスタント) がおられ、薬剤師の調剤業務を補助することで、薬剤師の業務の負担を減らす役割を担う。一方、薬剤師は患者さんに予防接種を行うことができ、処方箋のRefill (処方医の再診なしに、薬剤師が同じ薬を、患者さんに再び渡すこと) ができる。このようにアメリカの薬剤師の業務は日本の薬剤師に比べて幅広

く様々なことができる。これらの薬剤師業務は、今後、地方で医師不足が深刻化する日本においても導入が期待されており、薬剤師の地域における需要や重要性も高まると考えられる。また、アメリカでは、日本の国民皆保険とは違い、患者さんそれぞれが異なる保険を持つため、その保険が保障できる薬も患者さんごとに多種多様である。そのため、薬剤師は、処方薬やOTC (一般用医薬品) を患者さんに提供する際、患者さんの持つ保険が保障できる薬を確認し、その薬に変更できる場合は処方医に確認をとり、また、必要とする薬が保険の対象になるように保険会社と交渉するように処方医に依頼するなど、薬剤師の業務と保険は切り離せない関係となっている。実際、保険会社との交渉が上手くいかず、全額患者負担となり、経済的事情により患者さんが死に至ることがあり社会問題となっている。

病院

アメリカの薬剤師は、院内薬局よりも各診療科にいる場合が多い。それは、薬剤師がチーム医療の一員として、医師、看護師等と連携して薬の相互作用を確認したり、適切な薬を選択するなどして、患者さんの近くに寄り添うことが必要とされているからである。また、アメリカの薬剤師は、Residency（研修）を経て、がん、糖尿病などの専門薬剤師になることができ、専門の科の薬を処方することもできる。アメリカでは、薬剤師の権限が大きく、その分、勉強する量は増え、責任も重大であるが、アメリカの医療制度において薬剤師は重要な役割を担っていると感じた。最近では、調剤などの業務にAI（人工知能）を活用するなど、薬剤師業務はより専門性が高まりつつある。実際、見学させていただいたDana-Farber Cancer Instituteでは、薬を運ぶロボットLucyが試験的に導入されていた。今後、病院で活躍するAIやロボットを管理する薬剤師も増えてくることが予想される。

私が薬剤師になる頃には、医療制度が変わり、薬剤師の行う業務が増えてくるかもしれない。しかし、患者さんにとってのベストな医療（薬）を受けたいという気持ちは変わらず、薬剤師も患者さんに良くなって欲しいという気持ちは変わらないであろう。薬剤師は、今後、あらゆる状況にも対応していく必要があり、そのためにたくさんの知識や経験が必要となると考える。MCPHSサマープログラムを通して、アメリカの薬剤師事情を学ぶことができ、もっと自分自身が成長しないといけないと感じた。このプログラムに関わってくださった方々に感謝の気持ちを忘れず

に、京都薬科大学での生活とその後の薬剤師としての生活を過ごしていきたい。



薬物動態学のクラス
(Iman先生が分かりやすく説明してくださり、2年次後期の薬物動態学の良い予習となった)



Dana-Farber Cancer Institute
(実務の先生と実習中の学生2人が病院内を案内してくれた)
(▼: 筆者)

海外協定校との交流会・リサーチシンポジウムを開催しました

Event

国際交流推進室

6月25日～27日に、卒業論文発表会のために来日した海外協定校の学生との交流会や、海外協定校の教員とのリサーチシンポジウムを開催しました。交流会では、ボストンのMCPHS大学、エジプトのアレキサンドリア大学、タイのマヒドール大学、台湾の国立成功大学、ドイツのフライブルク大学の学生が、それぞれの

国の薬学教育や研究内容について発表を行い、その後情報交換を行いました。リサーチシンポジウムではカリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)、フライブルク大学などの教員による研究発表を行いました。

国際交流推進室では、より多くの学生がグローバルな視点で薬学を学び続けることに期待しています。



MCPHS大学6年次生による発表



アレキサンドリア大学5年次生による発表



UCSFのYang教授による研究発表

本屋放浪、ふと“陰翳礼讃”の文字が目。谷崎潤一郎の随筆であることは知っている。しかし、記憶のなかでは色気のない表紙の文庫本だったのに、新たに遭遇した本は黒壁に丸と角の明かり窓から光が差し込む写真が表紙。ページを繰ると随筆文の頁と光と陰影が静けさを漂わせる写真が対になっている。ふうん、うん、分かった。新たな趣向を入れての復活版、谷崎潤一郎著・大川裕弘写真『陰翳礼讃』（ハ・イ・タ・ナ・ソ・ル）。写真に魅かれ版元の思う壺▲「…たった今まで眠ったような鈍い反射をしていた梨地の金が、側面へ廻ると、燃え上がるように輝いているのを発見して、こんなに暗い所でどうしてこれだけの光線を集めることが出来たのかと、不思議に思う。それで私には昔の人が黄金を仏の像に塗ったり、…した意味が、始めて頷けるのである」▲恥ずかしくもいまになって仏像、絵画に限らず、椀、文庫、櫛の漆地に金、銀、螺鈿が施されてきたわけが腑に落ちた。ほの暗い室内には削ぎに削がれた外光や燭台などからの細い光が彷徨っている。その穂先を捉え梨地の金が燃え上がる。ふと過ぎたのは、濃紺の紙に金泥でもって経文が書写された「紺紙金泥経」である。そうか、紺地は薄暗い室内の闇に融け、金泥が燭台からの微光を集めて文字を浮かび上がらせる。経文唯一の世界と化すのか▲川端龍子（りゅうし）（明治18-昭和41）、西洋画から転じた日本画家、真骨頂は《鳴門》《爆弾散華》《金閣寺炎上》に代表される超弩級屏風や大型額。現代美術家・会田誠氏は「漢（おとこ）の画」と評している。それらのなかでも、40代の作である濃紺地に青金、焼金、白金などの金属泥をもって秋の雑草を描いた大屏風《草の実》（昭和6：六曲一双）に心惹かれる。膠に溶いた金属泥は非常に伸びが悪く、使うに難しい画材と聞くが、広葉は緩やかに、芒のような長い細葉は剛腕で一気に伸びやかに引いている。濃紺地の暗闇に支えられ、秋の雑草が緩急、柔剛の技で置かれた金属泥によって燃え上がっている▲三戸信恵氏は『色から読み解く日本画』（イクスルグ）で「《草の実》は紺紙金泥経の代表格《中尊寺経（平安時代）》を参考に構想されたものだ」と。《草の実》が描かれたのは燭台の時代ではなく、今ほどではないものの電気の時代であり、室内環境はそれ相応に明るい。そのときに紺紙金泥経を真似ても時代錯誤に墮する。参考にすれども模倣せず、逆に金属泥の力を最大限に集め、取るに足らない雑草を光り輝かせたところに意図があったに違いない▲『陰翳礼讃』に始まり《紺紙金泥経》を経て《草の実》へ。素人の連想も満更ではなかったことにニコッとするが、私には会田誠氏の《草の実》評“仏の慈悲の表現”はちと難しすぎる。ネット上で《草の実》を眺め、それに込められたもの、あれやこれやの妄想を肴に秋の夜長を

【寄稿】名誉教授授与にあたって

Report

■ 名誉教授 鈴木 栄樹

本年5月4日、学長室において後藤直正学長より「名誉教授称号証書」を拝受いたし、光栄に存じますとともに恐縮いたしております。

本学には、1年間の非常勤講師時代を含め都合28年の長きにわたりお世話になりました。この時期は、本学のみならず全国の薬系大学や薬学部にとっては、6年制への転換など大きな変動期にあたりました。こうした大事な時期に充分なことをしてこられたのか、内心忸怩たる思いもあり、今回、名誉教授を授与していただき、過分のことと存じております。後藤学長をはじめ教授会の先生方、土屋勝理事

長をはじめ法人役員の皆様方のご期待にお応えできるよう、今後とも本学のため私なりに微力を尽くして参る所存です。



（左から）後藤学長、鈴木名誉教授、山下事務局長

薬学から社会に貢献する

かわばた たかよし

川端 崇義



2016年 学部卒業
(臨床薬学教育研究センター)
岡山大学病院
薬剤部 治験薬管理部門

私は2010年に6年制の5期生として入学しました。在学時を振り返ると、部活と研究室で多くの友人と出会い、それぞれの目標に向けて切磋琢磨したことが思い出です。特に研究室では、論文の読み方や書き方など現在の基礎となる部分を丁寧に教えて頂きました。また薬剤師によるアンチ・ドーピング活動に興味を持った際、ある国際大会のドーピング検査に参加させて頂けたのもよい思い出です。そこでは薬剤師の資格をもった方々がスポーツファーマシストとしてアンチ・ドーピング活動をしたり、Doping Control Officer (DCO) としてドーピング検査を担ったりしていました。DCO自体に薬剤師の資格は必須ではありませんが、他の役員の方が「薬剤師がチームにいと安心する」と言われていたことが印象的です。この経験を通して薬剤師がアンチ・ドーピング活動を通してスポーツに関わる新鮮さを実感しました。そして現在は、臨床の場で研究を行いながら医療に貢献したいと思い大学病院に勤めています。

さて、皆さんは卒業後に自身が働いている姿を想像できますか。そして、これまで学んだ薬学を生かしてみたいと思える場面はありますか。私自身、治療の場だけでなくスポーツの場面でも薬学が生かせるとは意外でした。また実際に働く中で、学生の頃は学んだことが社会でどう生きるかあまりイメージできていなかったと感じます。特に現在所属している治験推進部では学生の頃に抱いていたイメージと異なる印象を受けました。それは、治験では通常の診療（患者さんにとって最善の医療を提供）と研究的側面（薬の有効性や安全性の科学的な評価）を両立させなければなりませんが、やはり患者さんにとっては治験も自身の治療の一環であるということです。研究的側面が追求されるあまり患者さんの不利益が生じないように、Clinical Research Coordinator (CRC)・医師等院内の協力者は誰もが大事にしていると感じます。私も日々の治験薬管理業務の中でその点について十分に注意し、不明点があれば依頼者に問い合わせをしながら働いています。

このように実際に働いてみて初めてわかることはどの業種でもあると思います。進路を考える際はぜひ歴史の長い京都薬科大学の利点を生かして、多方面で働いている卒業生の声を参考にしてみたいはいかがでしょうか。そして自身が輝ける職業に出会ってください。このメッセージが皆さんの将来を考えるきっかけになれば幸いです。

第13回 自治会執行部主催七夕企画

今年も7月初めから七夕当日にかけて、七夕企画を実施いたしました。愛学館入り口に笹を設置し、愛学館を訪れた方々に願い事を書いていただく企画です。期間は短かったのですが、勉強や部活動、私生活のことなど多くの短冊が見られ、多くの方に参加していただけたことを実感し、嬉しく思います。

七夕企画実施にあたりご協力頂いた学生課、教育後援会の方々、並びに企画に参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。皆様の願い事が成就されますよう、自治会執行部一同祈願申し上げます。

■ 統合薬科学系 助教 西村 周泰 かねやす

はじめに：消費税25%にビビるところから

「消費税が25%?? 10,000円のものを買ったら、消費税が2,500円もかかるってこと？」そう！その通りです。いわゆる高福祉・高負担で知られる北欧の国々では、社会保障、医療・介護の仕組みやそれらに対する人々の考え方が日本とは大きく異なります。いわゆる「福祉国家」と呼ばれるこれらの国々では、薬局はどのような位置づけなのでしょう？そして日本の薬局とどのように違うのでしょうか？筆者のスウェーデンでの経験をもとに紹介しようと思います(ちなみに私は薬剤師として現地に勤務していたわけではないので、内容は一般人の視点です)。

スウェーデンの社会保障システムとパーソナルナンバー

スウェーデンの医療制度を語る上で欠かせないのが、パーソナルナンバー (IDナンバー) です。スウェーデンの社会保障に加入するには、このパーソナルナンバーを取得する必要があります。これは日本におけるマイナンバーに相当するもので、外国人でも1年以上スウェーデンに滞在する場合は、取得することができます。パーソナルナンバーは、社会保障を受けるときだけでなく、各種行政サービス、銀行口座の開設、住居の賃貸契約などにも必要になります。また社会保障の受給だけでなく、給与支給額や納税についても紐付けされます。高福祉・高負担を掲げているわけですから、それを達成するためには全ての収入と支出を、「管理される」こととなりますが、スウェーデン人は概ねこのシステムに納得しているようです。

スウェーデンの薬局Apoteket

スウェーデンは医薬分業制度をとっています。薬局はスウェーデン語で、Apoteket (アポテック) と呼ばれ、町のいたるところに点在しています。元々は全て国営だったようですが、2009年に民営化したそうです。風邪薬、目薬、シップ薬、シャンプー、歯磨き粉など、一般的なOTCはもちろんのこと、処方薬も受け取ることができますし、お薬の相談にもものつてくれます。ここまでは日本の薬局と大きく変わりませんが、実はスウェーデンは、ITがとても進んでいます。ビデオ電話やチャットを使って自宅のパソコンから簡単にお薬の相談もできます。何より一番の違いは、処方箋が全てオンライン化されていることです。医療機関を受診し処方薬が出た場合、全国ネットの電子薬歴に処方情報がアップされます。患者は、薬局に行き窓口でIDカード (全ての薬局や医療機関で診察券の役割も兼ねる) を提示すれば、国内のどこの薬局でもその情報に基づいたお薬を出してもらえます。従って患者が処方箋の原本を見ることはありません。そして自身の薬歴や受診歴はオンラインで確認することもできます。さらに薬局のスタッフは、調剤や投薬の際にこの電子薬歴を閲覧することができるので、二重処方や併用禁忌などの情報をその場で知ることができます。とても進んでいる感じがしました。また薬剤費の自己負担額は年間最大1,800クローナ (約20,700円。1クローナ、約11.5円) とされていて、それを超える額は公費で負担されるシステムをとっています。

「福祉国家」で医療機関を受診する

さて病院にかかる場合はどうでしょう？基本的に国内の全ての病院は公営で、プライベートの病院はありません。国が責任を持って国民に医療を提供するというスタイルです。それだけ税金が高いんだから、とても充実した医療を受けることができるといってもいいし、そんなことはないというのが私の実感でした。スウェーデンではホームドクター制をとっていて、受診する際は基本的に電話予約が必要です (症状が軽いと受診できないこともあります)。診療時間はとても短く、医師の診察を受けるには長い列に並ばないといけません。下は実際に我々が経験したケースです (実践問題風)。

症例：6歳と4歳の幼児。旅行から帰った2日後にそろって発熱 (39度前後)。解熱剤を服用して休養をとり、2日後には36度台まで下がる。しかし翌日から再び39度台の発熱。解熱薬を服用するも38度台をキープ。翌日も熱が下がる気配がないので病院を受診。下痢・嘔吐なし。関節痛等なし。食欲はないが、水分はこまめに摂取させた。医師による診察の後、血液検査。CRP値 (細菌感染や炎症状態だと高値を示す) は正常とのこと。「何かのウイルス感染ね、旅行に行った時にうつったのでしょうか。」とのこと。さてこのケース、日本だとどんな薬が処方されるのでしょうか？解熱薬、抗ヒスタミン薬、鎮咳薬、そして病院によっては二次感染予防とかいって抗生剤まで出すところもあるかもしれません。一方、スウェーデンではどうだったのでしょうか？なんと処方薬なし。「発症から時間も経過しているので、このまま落ち着くでしょう。様子を見て下さい。自分たちで薬局に行って解熱薬を買って、水分をしっかりとって休んでください」とのことでした。とても素っ気なく感じるかもしれませんが、我々が特別ドライな扱いを受けたわけではなく、誰に聞いてもそんな感じです。むしろ「発熱くらいで診てもらえたのはラッキーね」くらいな感じでした。高税率負担とはいえ財源は潤沢というわけではなく、限られた財源で医療をまわすわけですから、無駄は徹底的に省かれます。そしてそうしないと本当に必要にしている人に医療が届かないこと、財政が破綻するというのを、ほとんどの国民はよく理解しています。ちなみに全ての医療行為がこんなに質素ではなく、救急時や処置が必要なときはもちろんしっかり診てくれます。

終わりに：医療に対する価値観を見つめ直すことのススメ

さて、ここではスウェーデンの薬局と医療制度のほんの一部について紹介しました。みなさんの中には将来、外国で薬事や医療に関われる方も少なくないと思います。それぞれの国で様々な医療や薬事のスタイルありますし、医療そのものの位置づけや国民の考え方も大きく異なります。我々が日本で当然のように受けてきた医療は、外国ではまた違った価値観で運用されていることも珍しくありません。日本のシステムとの違いを見つけてみると面白いかもしれませんよ。



カロリンスカ医科大学病院の門前薬局 (ストックホルム市)

学生実習支援センター 助教 高尾 郁子

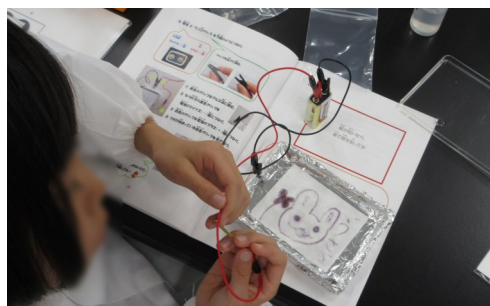
7月28日（日）本学A22実習室にて、市民組織『山科区「はぐくみ」ネットワーク』と共に、理科実験講座「身近な夏の不思議体験2019イン山科」を開催しました。地域の小学生に理科の楽しさを知ってもらいたいと始まったこの講座は今年で9回目を迎え、山科区の小学生の夏の恒例行事になっています。

今年のテーマは「ヨウ素デンプン反応」。当日は学生実習支援センター教員と企画・広報課職員のほか、地域ボランティアスタッフのサポートのもと、抽選で当たった小学生140名が午前と午後の部に分かれ、3つの実験を通じて身近な科学の不思議を体験しました。



科学者のたまごたちが実験室に集合

「身のまわりのデンプンを探してみよう」では、こんぺいとうやポテトチップスなど、普段食べているお菓子の中にデンプンが含まれているかどうかと一緒に調べました。また発展編の「お米の違いを調べてみよう」では、もち米とうるち米をつぶした液にヨウ素を含むうがい薬を加え、デンプンの構造の違いを反応液の色の違いとして観察し、それぞれのお米の特徴をデンプン構造と紐づけて楽しく学んでもらいました。特に人気が高かった「電気の力で紙に字を書いてみよう」では、ヨウ化カリウム水溶液の電気分解を利用し、デンプン水溶液を浸み込ませた紙に文字や絵を書きました。電気ペンが紙に触れた瞬間に現れる紙に浮き出る鮮やかな紫色に感嘆の声が響き、自然現象の不思議さを感じながら夢中で絵を描いている姿が印象的でした。



電気ペンで絵を描いて楽しみました

実施後のアンケートでは「デンプンに色々秘密があってびっくりした。どうしてこんな色になるのだろうと疑問が出てきた」、「理科は楽しくて面白いことがわかったし、身の回りにあることがわかって調べてみたい」などの感想をいただきました。今年も参加した子ども達に身近な科学の楽しさや不思議を実感してもらえ、とても嬉しく思います。

講座の実施にあたり、約20名の地域ボランティアスタッフが応援に駆け付け、各実験台にて子どもたちの実験をきめ細やかに指導・支援していただきました。この場を借りて市民組織『山科区「はぐくみ」ネットワーク』実行委員会の皆様に深く感謝申し上げます。



地域ボランティアスタッフのサポートは欠かせません

今後も地域に根差した大学の役割として、近隣学区の児童・生徒の理科教育の一助になればと期待し、継続していきたいと考えています。

なお、本講座は国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施したことを申し添えます。

第104回薬剤師国家試験(6年制薬学の8回目)が2019年(平成31年)2月23日、24日に実施されました。難易度に関しては適切で、単なる知識のみならず、読解力、思考力、応用力を問う良問が多かったと判断されます。今回から新たに禁忌肢(試験問題の中にある、一定数誤答した場合に即座に不合格になる選択肢を意味する語。内容としては、人命にかかわる、医療倫理に抵触する、法律違反に問われうるなどの重大な誤りであることが多い。)が導入されました。第106回から適用される「新出題基準」や「改訂コアカリ」を意識した、科目の壁を越えた連問など「総合的思考力」が求められる問題が今回出題されました。薬学理論問題では「物理・化学・生物」と「衛生」の4連問、「薬理」と「病態・薬物治療」の2連問が3題、薬学実践問題では「薬剤」、「薬理」および「実務」の4連問などがあり、このような問題は今後益々増えていくことが予想されます。また、「物理・化学・生物」および「衛生」では第106回を見据え、医療または医薬品と関連付けた問題が増えつつあります。薬剤師国家試験は、社会が求める薬剤師像に合った、また国が推進している地域包括ケアシステム、介護や災害時医療現場での薬剤師の役割を問うなど6年制薬学に相応しい内容に大きく変化しています。

表1. 男女別、設置主体別合格率

(1) 男女別合格率①						(2) 男女別合格率②					
区分	総数	男		女		区分	総数	男		女	
出願者	15,796名	6,445名	(40.80%)	9,351名	(59.20%)	6年制 新卒	出願者	10,534名	4,092名 (38.85%)	6,442名 (61.15%)	
受験者	14,376名	5,753名 (40.02%)	8,623名 (59.98%)				受験者	9,508名	3,633名 (38.21%)	5,875名 (61.79%)	
合格者	10,194名	3,956名 (38.81%)	6,238名 (61.19%)				合格者	8,129名	3,137名 (38.59%)	4,992名 (61.41%)	
合格率	70.91%	68.76%	72.34%				合格率	85.50%	86.35%	84.97%	
						6年制 既卒	出願者	4,841名	2,116名 (43.71%)	2,725名 (56.29%)	
							受験者	4,527名	1,937名 (42.79%)	2,590名 (57.21%)	
							合格者	1,950名	774名 (39.69%)	1,176名 (60.31%)	
							合格率	43.07%	39.96%	45.41%	
						その他	出願者	421名	237名 (56.29%)	184名 (43.71%)	
							受験者	341名	183名 (53.67%)	158名 (46.33%)	
							合格者	115名	45名 (39.13%)	70名 (60.87%)	
							合格率	33.72%	24.59%	44.30%	

(3) 設置主体別合格率																
区分	総数				6年制新卒				6年制既卒				その他			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	663名	644名	550名	85.40%	481名	477名	449名	94.13%	63名	57名	30名	52.63%	119名	110名	71名	64.55%
公立	295名	287名	253名	88.15%	230名	230名	219名	95.22%	34名	28名	17名	60.71%	31名	29名	17名	58.62%
私立	14,838名	13,445名	9,391名	69.85%	9,823名	8,801名	7,461名	84.77%	4,744名	4,442名	1,903名	42.84%	271名	202名	27名	13.37%
本学	423	396	361	91.16%	372	352	332	94.32%	45	40	28	70.00%	6	4	1	25.00%

さて、今回の試験では、国公私併せて73大学の学生が受験しました。15,796名が出願し受験者総数14,376名中、合格者は10,194名で合格率は70.91% (第103回：70.58%) でした。6年制新卒の全国合格率は85.50%と前回より僅かに上昇しました (第103回：84.87%)。また、6年制既卒者の合格率は43.07%と新卒に比べてかなり低く、第103回 (47.00%) に比べて約4ポイント低下しており、年々その合格率が低下する傾向にあります。本学では、新卒者352名が受験し、合格者は332名 (合格率94.32%：私立8位)、6年制既卒者は40名受験して合格者は28名 (合格率70.00%)、4年制既卒者は4名受験して合格者は1名、本学総合合格率は91.16% (全国70.91%) で、全国総合4位 (73校中) でした。この学年は、成績面で心配な学生の割合が比較的高い学年でしたが、ここまで学年全体の成績が伸びた要因として次のことが挙げられます。1) 各自危機意識を持って計画的に学修に取り組んでいた、2) 2018年度の薬学演習 (対象者：実力試験および評定平均の下位学生) では主体的な学びを促すべく、事前課題 (5年次実力試験Ⅱの問題について解説を考えさせる) を課し、予習に重点を置いた、3) アドバンスト薬学 (6年次後期開講科目) 終了後の指定演習 (確認試験や模擬試験の成績下位者を対象) では、その日の担当教員・講師によるデイリーテストのポイント解説を実施した、4) 学生に関する情報 (出席状況、指定学生の課題取り組み状況、模擬試験の成績等) を、当センターと分野・センター間で共有し、細やかな指導に努めた、5) 当センターでの質問対応や個別の学修相談、また模擬試験の成績下位者に対する面談により現状の把握と意識改革の促しや学修アドバイスなどの包括的学修フォローアップを行った、ことなどです。

次に、今春卒業した本学6年制8期生の評定平均と国家試験合格との関係性を調べました。表2に示しますように、これまでと同様評定平均と卒業・合格率との間に明確な相関が見てとれます。即ち、評定平均80点以上の卒業生は全員合格しており、評定平均が下がるにつれて卒業・合格率が低下傾向にあります。このことは、1年次からの日頃の学修の積み重ねが如何に大切かを物語っています。単位を修得するためだけの勉強に終始するのではなく、学問に興味を抱き、普段から将来の医療従事者としての自覚や国家試験等を見据えた学修意識を持ち、それらを高めることが肝要と考えます。

表2. 評定平均と可否との関係

評定平均 ※1	学生数 ※2	卒業者	合格者	不合格者	卒業・合格率
95点以上	0	0	0	0	0.0%
90点以上95点未満	2	2	2	0	100.0%
85点以上90点未満	23	23	23	0	100.0%
80点以上85点未満	55	55	55	0	100.0%
75点以上80点未満	76	76	74	2	97.4%
70点以上75点未満	112	105	102	3	91.1%
65点以上70点未満	103	89	75	14	72.8%
65点未満	2	2	1	1	50.0%

※1 専門必修講義科目の平均点
※2 休学者3名を除く

本学6年制8期生に対しても、昨年度と同様に今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、国家試験の解答データ入力への協力を要請したところ、352名の受験者中310名が入力してくれました(入力率88.1%、前回：89.6%)。表3に示しますように、本学総合正答率は75.2%と前年度(71.76%)に比べて3.4ポイント上昇しました。平均正答率30%未満の問題が17題(前回26題)あり、その内訳は必須問題で0題(前回1題)、理論問題で10題(前回14題)、実践問題で7題(前回11題)でした。また、科目ごとの正答率を比較しますと、物理・化学・生物、薬剤および病態・薬物治療の一般問題(理論問題、実践問題)が他の科目に比べて正答率が低いものでした。薬剤では、グラフと図の読解や考える力を要する計算問題が多数出題され、また製剤では具体的な医薬品に関する出題が増加したこと、病態・薬物治療では、理論問題としてこれまであまり出題されなかった「ナルコレプシー」が取り上げられたり、糖尿病の運動療法などの問題、また、「薬理」と「病態・薬物治療」の連問が出題されたことが難易度を上げることとなり、結果的に比較的低い正答率となったと推察されます。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必須問題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90
最低点	9	6	7	9	7	3	5	67
平均点	12.9	9.2	13.8	13.4	12.7	8.9	8.7	79.6
最高点	15	10	15	15	15	10	10	89
平均正答率	86.2%	92.0%	91.8%	89.3%	84.5%	89.3%	86.7%	88.4%
学内全体(新卒)								87.90%

問題区分	理論問題						
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	合計
問題数	30	20	15	15	15	10	105
最低点	6	6	5	3	5	3	43
平均点	15.4	14.5	11.5	9.9	10.2	7.6	69.1
最高点	29	20	15	15	15	10	99
平均正答率	51.2%	72.6%	76.7%	65.8%	68.3%	75.7%	65.8%
学内全体(新卒)							65.10%

問題区分	実 践 問 題								
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計	総合計
問題数	15	10	10	10	10	10	85	150	345
最低点	4	3	5	0	2	4	54	87	209
平均点	9.6	7.2	7.8	6.3	6.8	7.8	67.3	112.2	261.5
最高点	15	10	10	10	10	10	81	137	319
平均正答率	64.2%	72.2%	78.1%	63.1%	68.0%	78.1%	79.1%	74.8%	75.8%
学内全体（新卒）								74.70%	75.20%
全国（新卒）									72.80%

<第105回薬剤師国家試験に向けて>

先ずは、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めて苦手意識を払拭することが肝要です。基礎系科目、すなわち物理・化学・生物は他の科目の基礎となり定着するには時間がかかるため、反復学習が重要となります。また、薬理は国家試験において、合格者と不合格者との正答率の差が最も大きい科目の一つであることがデータ分析で判明しています。国家試験では内容が偏ることなく出題されますので、重要項目を中心に理解しながら、また科目の垣根を越えて関連付けながら勉強することが大切です。今、成績がよくない、あるいは先行き不安であると感じている学生は、これまでの勉強方法に問題点はないか検証し、実効性のある勉強法の確立を目指しましょう。普段から、友達と一緒に勉強し、教え合うことも効果的な学修方法です。薬学教育研究センターでは必須問題データベースおよびweb問題などの自己学修ツールを用意しています(HP参照)。これらを主体的に学ぶきっかけとしていただきたいと思います。各教科の内容に関する質問についてはオフィスアワーを、また学修に関する悩み相談については薬学教育研究センターの『学びコンシェルジュ』を是非利用して下さい。何事も早めの行動が重要です。

～ 8月のオープンキャンパス ～

8月3日(土)・4日(日)の2日間、オープンキャンパスを開催しました。

両日とも酷暑の中、1,721名(前年比:104%)の参加者がありました。創立130周年記念館を会場として「学長メッセージ」、「大学紹介」、「在学生の話」を実施し、その後、「体験実習」、「施設見学」、「相談会」を行いました。「在学生の話」は、6年次生の曲佳歌さんきよくよしかと辻雅裕さんの2人が講演を行い、両日とも好評でした。

参加者からは、「大学の情報を詳しく知ることができ、参加してよかった」、「大学紹介のスライドが数値で表されていて理解しやすかった」、「色々な可能性があり、進路が薬剤師の道だけではないと知れた」、

「実際に研究や実習する施設が見られ、より興味がわいた」、「大学の雰囲気、学生さんの対応がとてもよかった」などの声が聞かれました。

また、学生による企画「学生トークライブ」では、大学での学びや京薬生の学生生活、高校との違いを在学生がわかりやすく紹介をし、「京薬生の日々がよくわかった」、「これからの受験勉強にとっても役に立つ情報がもらえた」、「トークがとても面白く楽しかった」と大盛況でした。

今後も、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

■ 2019年8月のオープンキャンパス参加人数

日程	受験生	付添者・保護者等	合計
2019年 8月3日 AM	413	284	697
2019年 8月3日 PM	107	71	178
2019年8月3日 計	520	355	875
2019年 8月4日 AM	324	279	603
2019年 8月4日 PM	130	113	243
2019年8月4日 計	454	392	846
2019年度合計	974	747	1,721
2018年度合計	987	669	1,656



体験実習の様子

■ 2019年8月のオープンキャンパス集計結果(受験生)

※有効回答アンケート数: 867

Q1 オープンキャンパスの開催を何で知りましたか？(複数回答)

No.	回答	件数	(全体)%
1	本学のホームページ	534	61.6%
2	家族・親戚	186	21.5%
3	高校の進路指導や資料	176	20.3%
4	先輩・友人・知人	105	12.1%
5	オープンキャンパスのチラシ・DM	86	9.9%
6	LINE@	46	5.3%
7	塾・予備校	37	4.3%
8	その他	16	1.8%
9	受験雑誌など	4	0.5%
10	交通広告(JR,京都市営地下鉄,京都市営バスなど)	3	0.3%
11	新聞	2	0.2%
12	祇園企画(うちわ)	1	0.1%

Q2 オープンキャンパスに参加された目的をおしえてください(複数回答)

No.	回答	件数	(全体)%
1	キャンパス・校舎・食堂など施設・設備の確認	714	82.4%
2	実験・研究などの施設・設備の確認	419	48.3%
3	入試情報の確認	410	47.3%
4	キャンパス周辺の街並みや環境の確認	309	35.6%
5	授業内容の確認	234	27.0%
6	薬剤師国家試験対策についての確認	218	25.1%
7	研究内容の確認	194	22.4%
8	薬学6年制の確認	178	20.5%
9	就職状況や進路指導の確認	176	20.3%
10	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	165	19.0%
11	大学の教育理念・方針、将来構想の確認	162	18.7%
12	薬局・病院実務実習の確認	136	15.7%
13	クラブ・サークル活動などの確認	127	14.6%
14	在学生の確認やコミュニケーション	79	9.1%
15	学生相談・サポート体制の確認	58	6.7%
16	教育職員及び事務職員とのコミュニケーション	29	3.3%
17	その他	8	0.9%

■ 2019年8月のオープンキャンパス集計結果（受験生）

Q3 本学を受験する場合、どの方式での受験をお考えですか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	検討中	376	43.4%
2	B方式(本学独自)	303	34.9%
3	推薦入試	273	31.5%
4	A方式(センター前期)	204	23.5%
5	C方式(センター後期)	46	5.3%

Q4 オープンキャンパスに参加して、京都薬科大学への受験意欲はどのように変わりましたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	とても高まった	431	49.8%
2	少し高まった	345	39.8%
3	変わらなかった	60	6.9%
4	無回答	27	3.1%
5	少し減退した	3	0.3%
6	とても減退した	1	0.1%



学生企画も盛り上がりました

今回のオープンキャンパスでは、初の試みとして、学生デザインによるオリジナルラベルのミネラルウォーターを配布しました。

この「京薬オリジナルウォーター」は、2～4年次生の学生6名の学内ジョブチームが約4ヶ月かけてデザインを考案、制作したもので、「和柄ボトル」と「薬学ボトル」の2種類のデザインとなっています。「京都薬科大学の魅力を伝える」ことをコンセプトに、和柄ボトルでは、京都の街並みのシルエットや金平糖などのイラストで“京都らしさ”を表現。薬学ボトルでは、フラスコや試験管など研究室内を思わせるデザインで、“本学らしさ”を表しました。

ご来場の方々からは、学生ならではのデザインに「かわいい」「綺麗」といった声が多く聞かれ、実際にデザインした学生たちも「喜んでもらえて嬉しい」

と安堵の表情を浮かべていました。

なお、このオリジナルウォーターは10月のオープンキャンパスでも配布を行う予定です。



薬学ボトル(左)と和柄ボトル(右)



来場者の皆さまにも大好評でした

News 京薬会だより

<第10回ホームカミングデーの開催>

京薬祭に合わせて11月3日（日）にホームカミングデーを京薬会主催で開催します。今年は10回目の節目であり、後藤学長による大学の近況紹介に加え、本学生命薬科学系教授の芦原英司先生に「白血病と分子標的治療」、京薬会歴史資料室委員長の鈴木栄樹先生に「京薬と同窓会の歩み」についての記念講演、また、同窓会の歩みについての記念展示を行います。本学元教授の懐かしい先生や在学生との交流、歓迎パーティー、学内散策、愛学躬行歴史資料室の見学、また、先着100名の卒業生の方に京薬祭模擬店で使用できる1,000円分のチケットをお渡します。多数のご来場・ご参加をお待ちしております。

詳しくは京薬会誌8月号、ならびに京薬会ホームページ（<https://www.kpu-aa.com>）をご覧ください。

<令和元年度京薬会支部総会の開催状況>

大分支部（6/30）、高知支部（8/24）、富山支部（9/8）、岡山支部（9/21）、京都支部（9/28）、香川支部（9/28）、北海道支部（10/6）、静岡支部（10/13）、三重支部（11/10）、東京支部（11/17）の各支部総会が予定されています。京薬会より会長、副会長をはじめとする幹事、また大学より理事長、学長にもご参加いただき、各地で大学と地域の交流を深めています。

詳しくは京薬会誌8月号、ならびに京薬会ホームページをご覧ください。



作品名 「薔薇」
作者 三輪 晃久
規格 縦530mm
横407mm

三輪晃久(みわ あきひさ：1934年～ 京都府出身 日本画家)
父は日本画家で日本芸術院会員の三輪晃勢。1958年
京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）日本画科
卒。大学在学中の1957年に第13回日展に初入選。
その後、堂本印象画塾「東丘社」入塾。1967年第
10回新日展で特選を受賞し、1979年改組日展で特
選を受賞。1982年に初めて審査員をつとめ、1983
年に日展会員となり、2003年から日展評議員。

本作品は、既に本欄にて紹介済みの「ビーナス像」(No. 197 Apr. 2019)に登場した「蓬莱セミナーハウス」（2008年閉館）に展示するため、1985年に（株）高島屋から購入したものであるが、現在は、躬行館2階の非常勤講師室に展示している。

なお、本作品の名称は、当初の資産台帳には「バラ」とカタカナ表記で登録されていたが、2017年8月の調査において、額装を外してキャンバス裏面を調査した結果、作品名が『薔薇』と漢字で記載されていたことから、この調査結果を踏まえ、作品名を漢字表記の『薔薇』に改めている。



各種セミナーの報告書

Event

これまでに開催されたセミナーにおいて、本誌に未掲載の報告書は以下よりご覧いただけます。

■第2回 在宅医療セミナー(4月18日開催)

https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20190418_report.pdf



■第3回 がん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナー(6月22日開催)

https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20190622_report.pdf



■統合薬科学系セミナー／ がんプロ 薬学研究者養成セミナー(5月27日開催)

https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20190527_report.pdf



■第10回 KPUシンポジウム(7月5日開催)

https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/kpu_symposium/pdf/10report.pdf



■生命分子科学特論1／ 薬学研究者養成セミナー(6月4日開催)

https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20190604_report.pdf



薬理学分野 教授 田中 智之
 リチャード・ハリス 著（寺町朋子訳）
 『生命科学クライシス 新薬開発の危ない現場』
 白揚社 (2019)

本書の冒頭では、医薬品の開発につながる、有名な学術誌に掲載されたエポックメイキングな基礎医学研究の大半が再現できないというショッキングな事実が紹介されます。「再現性の危機」は最近の生命科学の大きな話題のひとつであり、研究の再現性が低いことがもたらす様々な弊害が注目されています。

私の学生時代は「統計の力を借りなくてはならないのなら、もっと良い実験を考えた方が良い」という本書に登場するアドバイスは珍しいものではありませんでした。次々と新しい遺伝子が発見され、その役割が解明される時代は確かにそれでも良かったかも知れません。しかし、コンピュータの能力が向



上した現在、一種のデータサイエンスとしての生命科学の重要性が増しています。統計学のセンスのない研究者は、研究不正すれすれの間違った解釈に陥いることすらあるのです。

個人商店スタイルが普通であった研究グループのあり方にも変化が迫られています。大規模なデータを収集、解析するためには、研究方法を標準化し、多数の研究グループが協力しなければいけません。しかし、研究者の評価は相変わらず個人ベースで、そのことが手法の標準化や大規模研究の発展を阻害しています。また、公的な研究費の期間が短いことや、研究者の雇用が任期制であることは、長期的な観点の研究が激減し、上滑りな（再現性のない）科学を奨励することにつながっています。

こうした生命科学の問題点を立て続けに紹介されると暗澹たる気持ちになってきます。しかし、ちょっと頭を切り替えれば、ここにはこれからの生命科学が目指すべき方向性が示されていることに気付くはずで。科学研究の予算に制限がある中、「結果を出す」にはどうしたら良いでしょう？時代から取り残されている生命科学の領域は、もしかしたら宝の山かもしれないのです。将来の医療、健康を担うみなさんに是非読んでいただきたい一冊です。

News 人事異動

採用

基礎科学系健康科学分野 助教 棚橋嵩一郎
 (任期：2019. 7. 1～2024. 6. 30)
 事務局会計課 事務員 中西 弘樹
 (2019. 7. 1付)

再任用

医療薬科学系薬物動態学分野 助教 河渕 真治
 (任期：2019. 7. 1～2024. 6. 30)

配置換

事務局施設課 係長 平 薫
 (前 事務局庶務課)
 事務局研究・産学連携推進室 係長 土田 花美
 (前 事務局会計課)
 事務局庶務課 主査 前田 朋宏
 (前 事務局入試課)
 事務局調達検収室 事務員 磯部 正文
 (前 事務局施設課)
 事務局入試課 事務員 中村 洸稀
 (前 事務局企画・広報課)
 (以上2019. 7. 1付)

昇格

事務局次長〔学生サービス担当〕 森 洋介
 事務局庶務課 課長補佐 山口 貴
 事務局企画・広報課 係長 谷垣 朱美
 事務局学生課 主査 外村 友彦
 事務局国際交流推進室 主査 佐々木雄太
 事務局情報管理推進室 主査 北村 聡洋
 (以上2019. 7. 1付)

兼務

事務局教務課長
 事務局次長〔学生サービス担当〕 森 洋介
 (2019. 7. 1付)

兼務解除

事務局施設課 事務員 磯部 正文
 (事務局調達検収室)
 (2019. 6. 30付)

現在「申込受付中」および今後申込受付を開始する研修会をご紹介します。
皆さんの参加をお待ちしています。

●「eラーニング講座」 ※申込受付中です

本学で開催した「卒後教育講座」の直近3年間のコンテンツをWEB配信します。配信期間中、何度でも視聴できます。

*配信期間：2019年11月1日(金)～2020年1月31日(金)

*受講料：15,000円（視聴及びPDF資料ダウンロード）

*申込受付期間：2019年8月28日(水)～2019年10月21日(月)

*認定単位：1単位／1コンテンツ 京都薬科大学認定単位G24

☆1コンテンツごとに視聴後に確認テストを実施し、正答率2/3以上で合格とし1単位を配付します。

テストは合格するまで複数回受験できます。

☆認定単位は、1ヶ月ごとにまとめて送付します。

☆過去にeラーニング講座や卒後教育講座を受講して既に認定単位を取得しているコンテンツは、視聴はしていただけますが、認定単位の配付はありません。

No.	コンテンツ名	講師	開催年度
1	認知症診療の現状と展望	札幌医科大学医学部 神経内科学講座 教授 下濱 俊 先生	2019
2	アルツハイマー病に対する新規治療法開発に向けた基礎研究の動向	京都薬科大学 統合薬科学系 教授 高田 和幸 先生	
3	これからの在宅チーム医療	株式会社ゆうホールディングス 教育研修部 部長 小林 篤史 先生	
4	地域連携によるポリファーマシー対策	宝塚市立病院 薬剤部 部長 吉岡 睦展 先生	
5	脂質異常症治療の現状	康生会武田病院 循環器センター 部長 木下 法之 先生	
6	病態と治療薬がみえるリポタンパク質代謝の異常	京都薬科大学 病態生化学分野 教授 秋葉 聡 先生	
7	薬剤費上昇抑制における薬剤師の役割	慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授 中村 洋 先生	
8	地域フォーミュラリーを正しく理解するために	昭和大学 統括薬剤部長、病院薬剤学講座 教授 佐々木 忠徳 先生	
9	アレルギー疾患に関わる薬剤師の役割 ～小児アレルギー疾患を中心に～	すずらん調剤薬局 管理薬剤師／京都薬科大学 特命教授 上荷 裕広 先生	2018
10	高血圧診療アップデート	京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学・腎臓内科学 教授 的場 聖明 先生	
11	心疾患治療の進歩と望まれる薬物療法	京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学・腎臓内科学 教授 的場 聖明 先生	
12	理想と現実から考える糖尿病薬物療法のありかた	京都第二赤十字病院 糖尿病内分泌・腎臓・膠原病内科 部長 長谷川 剛二 先生	
13	AMR対策に薬剤師として関わるために必要なTips	京都薬科大学 臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一 先生	
14	AMR対策に必要な耐性菌の基礎知識	京都薬科大学 学長 後藤 直正 先生	
15	多発性骨髄腫における診療の進歩	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター 院長 島崎 千尋 先生	
16	脳梗塞急性期治療と慢性期再発予防	京都第二赤十字病院 脳神経内科 部長 永金 義成 先生	
17	薬剤師のための臨床感染症学 ～外来編～	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 総合内科・感染症科 部長 神谷 亨 先生	2017
18	病床再編成と地域包括ケアシステムに向けた患者情報の共有化	京都大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長 松原 和夫 先生	
19	小児薬物療法にかかわるために ー医薬品の適正使用のためにー	東京理科大学 薬学部 臨床教授 小高 賢一 先生	
20	薬剤師による緊急対応について ～いざという場合に求められる行動のために～	近畿大学医学部 救急医学 窪田 愛恵 先生、主任教授 平出 敦 先生	
21	漢方医はどう考え処方につなげるのか	明徳漢方内科 院長 篠原 明徳 先生	
22	薬と患者をつなぐ医療ー糖尿病医療学の世界	奈良県立医科大学 糖尿病学講座 教授 石井 均 先生	
23	くすりの費用対効果評価とは？ ー「やるリスク」から「やらないリスク」へー	東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学寄付講座 特任准教授 五十嵐 中 先生	

●実務支援セミナー 「注射薬の無菌混合調製実習」

実際にクリーンベンチ、医薬品等を使用した実習です。

リピーターの受講可ですが、注射薬無菌混合調製の経験が少ない方を対象とします。

時間	内容	場所
12:00～12:30	・導入講義 注射無菌混合調製に必要な基本的知識	
12:30～14:50	・帽子、マスク装着 ・手指消毒 ・手袋装着 ・ガウン装着 ・注射薬混合調製（アンプル、粉アンプル、バイアルの取扱い） ・配合変化の実態	R23, R24演習室
15:05～16:30	・衛生的手洗い ・ガウン装着 【実習】 ・注射薬混合調製（アンプル、バイアルの取扱い） ・高カロリー輸液の取扱い ・（デモ）インフューザーポンプ、閉鎖式混合システム	R15無菌前室 R14, R16無菌室
16:40～17:00	質疑応答	R23, R24演習室

*開催日時：2020年2月23日（日）12：00～17：00

*開催場所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 2階演習室・1階無菌室

*講師：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 中村 暢彦 先生 他

*定員：40名（薬剤師限定） *受講料：5,000円（テキスト代含む）

*認定単位：G24 3単位

*申込受付期間：2019年12月4日（水）～2020年2月10日（月）

<申込方法>

生涯教育センターホームページよりお申込みください。

(<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>)



生涯教育センター
トップページ



eラーニング講座
申込ページ



実務支援セミナー
申込ページ

●問合せ先

京都薬科大学 生涯教育センター

*E-mail: skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

*TEL: 075-595-4677（平日 10:00～16:00）

*FAX: 075-595-4683



生涯教育センター
Facebook



生涯教育センター
Twitter

運動系クラブ AED講習会参加

Event

学生課

6月4日、6月11日の130周年記念館にて実施されたAED講習会に、運動系クラブの学生も参加しました。毎年、職員向けに実施されていた講習会ですが、クラブ活動中のアクシデントに対応することを目的として、今年度からは学生も加えていただきました。

ビデオで「胸骨圧迫とAEDの使い方」を学習した後、各グループに分かれて、インストラクター（本学

教員）から「傷病者発見→観察→周囲への指示→胸骨圧迫→AED使用」の実技指導を受け、一連の流れを体験しました。

小グループ制で、各自が人形を使った胸骨圧迫のリズムや力加減、AEDの使用手順を経験し、有意義な時間になったと思います。



胸骨圧迫の指導を受けているところ



胸骨圧迫の実施

第5回 卒業生・在学生交流会を開催しました！

Event

進路支援課

2019年8月18日(日)に「卒業生・在学生交流会」を開催しました。本プログラムは在学生の職種理解を深めること、そして卒業生の方々には母校との関わりを意識していただくことを目的として2014年度から始まりました。第5回となる今年度は、2017年3月卒業生(6年制6期生)をお招きしました。暑さの厳しい中ではありましたが卒業生14名、4年次生1名、5年次生34名、教育職員10名の参加を得て、開催しました。

第1部の「業界プレゼンテーション」では、卒業生の皆様に業界や職種に応じて6つのグループに分かれていただき、各業界・職種について



業界プレゼンテーションの様子

3分程度お話をさせていただきました。続く第2部の「パネルディスカッション」は企業系(製薬企業、大学院)と臨床系(病院・薬局・ドラッグストア・公務員)の2セッション行いました。セッションを通じて卒業生の皆様には、

「いま仕事で役立っている大学時代の学び」など複数のテーマについて討論を行っていただきました。第3部の茶話会では、卒業生を囲んでメモを取る在学生や、教員と語らう卒業生、卒業生同士で語り合う姿が見られました。在学生にとっても、大学での学びや経験が社会の様々な場面で活かしていることへの驚きや、「今のうちにやっておくべきことについて理解が深まった」、「それぞれの職種で何が求められているのかを比較し理解することができた」といった声が聞かれる等、交流会を通じて卒業生と関わりを持つことで多くの気付きが得られる有意義な時間になったようです。



パネルディスカッションの様子

また、2017年3月卒業生(6年制6期生)の皆様には、交流会の実施に先立ち、別途「卒業生アンケート」にご協力いただき、その結果360名中166名から回答を得ることができました(回答率: 46.1%)。大学をより良くするためのご意見・ご提案も多くいただいております。これらは今後の取り組みに繋げていきたいと考えております。最後になりましたが、「卒業生・在学生交流会」ならびに「卒業生アンケート」にご協力を賜りました2017年3月ご卒業生の皆様に心より御礼申し上げます。



茶話会の様子

News お知らせ

京都薬科大学 京薬論集刊行会主催 第17回「文化講演会」のお知らせ

日時: 2019年11月3日(日) 14:00~16:00

会場: 京都薬科大学 本校地 Q21講義室

講演者: 今井 千壽氏(京都薬科大学 一般教育分野 准教授)

演題: 英国ヴィクトリア朝における紅茶の意味

講演者: 三宅 えり氏(京都外国語大学 非常勤講師)

演題: 源氏物語と病

※予約不要・聴講無料です。

■柔道部

柔道部は毎週火曜日17:30～19:30と土曜日10:00～12:00の2時間ずつで稽古しています。現在選手の数が少なくなっていますが、OBや外部からいらっしゃる師範のご協力もあり、各自が昇段など各々の目標をもって稽古に取り組んでいます。今後の予定としては、より深く理解して稽古に取り組めるよう、形講習会への参加を予定しています。

また、秋から冬にかけて行われる十二大学親善柔道大会や京都学生柔道段別体重別大会など、個人戦も扱っている大会に積極的に参加しようと考えています。

■マンドリン部

こんにちは、マンドリン部です。マンドリン部はマンドリン、マンドラ、セロ、ギター、コントラバスの五種の楽器でオーケストラを組み演奏しています。大学から楽器を始めた部員がほとんどですが、部員同士で協力して練習し、また技術顧問の先生の指導を受けるなど意欲的に取り組んでいます。現在は10月19日の定期演奏会を控え、猛練習中です。8月には4泊5日の夏合宿にも行き、集中して練習を行う事が出来ました。

また、練習だけでなくバーベキューなども行いました。第91回定期演奏会は10月19日(土)の14:00より(開場は13:30より)京都市右京ふれあい文化会館にて開催予定です。是非聴きにいらしてください！

■合唱部 (ユーベルコール)

今年は京都合唱祭に三年連続の出場を果たすことが出来ました。

2019年度もOB・OGの皆さんや山科区の地域の皆さんに発表の機会をたくさん与えていただき、様々な舞台で合唱を披露することが出来ました。これからも合唱を聞いてくださる方々を笑顔にできるような活動をしていきたいです。

〈今後の活動予定〉

10月 第15回コーラスフェスティバルin山科・醍醐出演

11月 京薬会ホームカミングデーにて学歌斉唱

京薬祭にてミニコンサート

12月 醍醐中央図書館クリスマス会にて合唱披露

3月 卒業式での学歌斉唱

和気あいあいと楽しく活動しています、是非私たちの歌声を聴きに來てください。

■管弦楽部

こんにちは、管弦楽部です。現在私達は11月30日に行われる定期演奏会に向けて、猛練習を重ねています。合奏のみならずパート練習やセクション練習にも力を入れていて、普段から一人一人の音を全員が聴き合うように意識する事で、方向性のある音楽を奏でることが出来るようになってきているように思います。

第47回定期演奏会は、11月30日(土)14時より(開場13時30分)長岡京記念文化会館にて開催します。ホームページでも情報を発信していますので、「京都薬科大学管弦楽団」で検索してみてください♪

お客様の心を動かすような演奏ができるように、感情豊かに楽しんで演奏したいと思います。是非聴きにいらしてください！



開館日程

図書館

2019年10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2019年11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2019年12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8:30-21:00

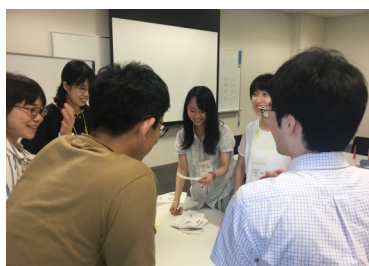
10:00-17:00

休館

休館=館内整備

この度、8月10・11日に東京府中で開催された日本薬学会第9回全国学生ワークショップ（WS）に参加させていただきました。テーマは「医療そして社会への貢献～私たちで未来を創ろう～」です。6年間の薬学教育を受けた全国の薬学部6年次生（69大学69人）が一堂に会し、今まで学んだことをもとに、薬剤師はこれからどのようなことが必要とされるのか、どのようなことをしていくべきなのかについて小グループでの討論を行いました。2日間タイトなスケジュールで、密度の高い、とても有意義な時間を過ごすことができました。討論の中で、今まで勉強してきたことの必要性、そして、それを基に自分の考えや意見を持つことの重要性や難しさを学びました。違う場所で学び、違う進路を目指す他大学の学生との交流は、最終目指すものが同じであっても、過程の考え方には様々なものがあると、当然のことではありますが、改めて実感することができました。

1日目は「20年後の医療はどうなっているか、その時薬剤師にできることは何か」の議論を行いました。今まで学んできたことを基に、「AIが活躍しているだろう」「遠隔診療



小グループでの討論

が行われているだろう」「医療の場は在宅がメインだろう」…等、ほとんどのグループがそのような議論をしていました。おそらく、どの学生さんもそう考えると思います。しかし、1日目のまとめで医薬品医療機器総合機構の紀平哲也さんに言われた一言は、「今日はつまらなかった」でした。「そんなことはもうすでに言われている。20年前は院外処方やジェネリックがほとんどなかった時代。20年前からすると今の医療は予想できるものではなかった」と。そこで初めて、

「20年後」の予測の、本当の難しさが分かりました。社会が変われば、薬剤師に求められることも大きく変わります。20年後はまだまだ私たちが働いている時代であり、私たちは予測できない社会で、模索しながら働かなければならないのです。しかし、予測できないということは、無限の可能性があり、自分たちで創っていくことができるということでもあります。「制度がないからできない」と、受け身の姿勢では、未来を創っていくことはできません。そのことを知れたのは、自分にとって、とても大きかったです。

WSに集まった学生は、真剣に未来を考え、未来は自分たちが創っていくのだと高い志をもつ人ばかりでした。新しい道を切り開くのは簡単なことではありませんが、この人たちとなら明るい未来を創っていけると、自信を持つことができました。私は来年の春から社会人となりますが、未来を創るひとりとして、薬のプロフェッショナルとして、サイエンティストとして、患者さんのために、社会のために、主体的に頑張っていきたいと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を下さり支えて下さった大学の皆様、先生方、日本薬学会や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



グループのメンバーとともに（筆者：前列右から2番目）

News お知らせ

■2019年度 学位記授与式（前期）

9月30日（月）に2019年度学位記授与式（前期）が執り行なわれ、後藤学長から、課程によらない博士2名に博士（薬学）の学位記が授与されました。

■ 秋・冬にかけての不調

夏休みが終わり、後期授業が始まって慌しく過ごしているうちに早10月を迎え、身のまわりに秋の深まりを日ごと感じるようになっていく頃ではないでしょうか。何かと賑やかしかった夏が終わり、日没時間も早まり、秋風を肌を感じ始めるこの時期、なんとなく祭りの後のような一抹の寂しさやもの悲しさを感じることもあるかもしれませんね。秋は「もの思いの秋」と表現されることがあるように、あれこれ考え込んだり思い悩んだりしてしまいやすい季節でもあります。また、少し前までは精力的に活動していたけれど、秋へと季節が進むにつれて、なんだかこれまでのようなやることが出なかったり、身体がだるくて疲れやすかったりといった普段とは異なる不調を感じたりしてはいないでしょうか。そして、思うように行動できない自分を責めたり、焦ったりしてしまっているのではないでしょうか。

ご存知の方もおられるかと思いますが、夏から秋・冬への移行期に心身の不具合が現れることはそれほど珍しいことではありません。不調を感じている方は自分だけがと思いこんでしまわないでください。ただ不調がひどくなったり、長期に放置したりすることで生活に支障をきたしてしまうといった深刻化を避けるためにも、自分の状態に目配りしておくことも大切です。そこでご自身の状態をモニターしていただく手がかりとして、不調の例をいくつか挙げてみましょう。

- 倦怠感や億劫さが続いている。
- 思考力や集中力が普段よりも低下している。
- なんとなく憂うつさを感じる事がふえた（気分が落ち込みがち）。
- 寝すぎてしまう。朝起きられなくなった（生活リズムが崩れている）。
- 以前にはやれていたことができない。
- 食欲がありすぎる、逆に食欲が減退している。

不調を感じておられる方はその原因に心当たりが
ありでしょうか。秋・冬の不調について調べた研究
チームが不調の原因のひとつに日照時間の減少があ
ることをつきとめ、積極的に日光を浴びることが状
態改善に効果的であるとする研究報告を提出したこ
とは広く知られています。また、原因はひとつとは
限らず、心理的な要因もあれば環境的な要因による
こともあるというように、人それぞれで異なる原因
があることが多いようです。今の自分に何が影響・作
用しているのかを理解し、状態改善に向け自分に適
した手立てを探すことが大切です。例に挙げたよう
な不調が続いて中々改善しないとき、不調を克服で
きない自分を恥じたり責めたりしてしまうようなと
きには、ご自身に合った対処や改善策を探すため
にも、ひとりで抱え込んでしまわずに学生相談室に
ご相談ください。

（臨床心理士 建部 有里）

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。

また、学生相談室内にサロンを設置し、開室時に開放しています。疲れたときやほっとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・ 開室（受付）時間 ： 月～金 8：45～17：15
- ・ 電話 ： 075-595-4672
- ・ メール ： gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

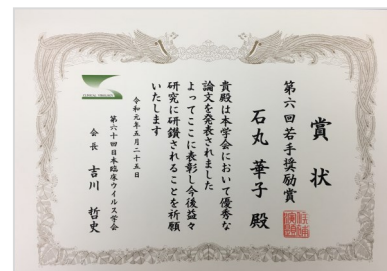
■ 第6回若手奨励賞を受賞

2019年5月25日・26日に名古屋市で開催された「第64回日本臨床ウイルス学会」において、細胞生物学分野の石丸華子さんが第6回若手奨励賞を受賞しました。

受賞者：細胞生物学分野 博士課程 2年次生 石丸 華子

演題：プロテアソーム阻害薬MG132はHSV-1により誘導されるERKシグナル抑制を阻害する

演者：石丸華子、渡部匡史、藤室雅弘



■ 学術奨励賞を受賞

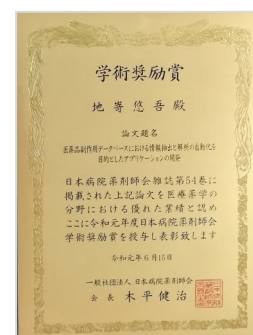
2019年6月15日に東京で開催された「第59回日本病院薬剤師会総会」において、臨床薬学教育研究センターの地寄悠吾助教が学術奨励賞を受賞しました。

受賞者：臨床薬学教育研究センター 助教 地寄 悠吾

論文題目：医薬品副作用データベースにおける情報抽出と解析の自動化を目的とした

アプリケーションの開発（日本病院薬剤師会誌、54(11), 1384-1390 (2018)）

著者：地寄悠吾、堀口大介、松村千佳子、矢野義孝



■ 第35回日本DDS学会を受賞

2019年7月4日・5日に横浜で開催された「第35回日本DDS学会」において、薬剤学分野の内藤千尋さんと倉谷千愛さんが優秀演題賞を受賞しました。

受賞者：薬剤学分野 博士課程4年次生 内藤 千尋

演題：ヒトiPS細胞由来三次元培養皮膚を用いた経皮吸収評価系の構築

演者：内藤千尋¹、山口朋子²、勝見英正¹、木村思瑠¹、亀井咲知¹、森下将輝¹、坂根稔康³、川端健二²、山本 昌¹
(¹京都薬大、²医薬基盤・健康・栄養研究所 幹細胞制御プロジェクト、³神戸薬大)



受賞者：薬剤学分野 6年次生 倉谷 千愛

演題：N-アシルアミノ酸、N-アシルタウリンの併用によるインスリンの経肺吸収性の改善ならびに吸収促進機構の解析

演者：倉谷千愛、三好大智、鶴飼裕紀、森下将輝、勝見英正、山本 昌(京都薬大)

■ Short Oral Presentation Awardを受賞

2019年7月10日・11日に千葉で開催された「The 3rd Workshop for Japan-Korea Young Scientists on Pharmaceutics」において、薬剤学分野の高木千聖さんがShort Oral Presentation Awardを受賞しました。

受賞者：薬剤学分野 6年次生 高木 千聖

演題：Aspartic acid modified micelle as a bone-targeting drug carrier for the targeted delivery of paclitaxel and treatment of bone metastasis

演者：Chise Takaki, Hidemasa Katsumi, Shugo Yamashita, Ayane Yoshioka, Minako Fukui, Masaki Morishita and Akira Yamamoto (Department of Biopharmaceutics, Kyoto Pharmaceutical University)



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

＊ 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

＊ 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2019年6月～2019年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

福井美代子(昭31)	菅田 順子(昭37)	森 一二美(昭52)
辻 勝蔵(昭34)	戸井 豊子(昭47)	田中 哲生(平02)

京薬会

京都薬科大学還暦祝賀同窓会有志一同

＜企業・団体・一般＞

キノンビクス株式会社

＜法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

高野 江里(課 長) 土屋 勝(理事長) 富永 重夫(職 員)

(2019年8月31日現在)



KPUnews No. 199 2019年10月発行／編集：KPUnews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。